

信仰宣言の基本構造と意味

1) 基本構造

- イ) 基本的に三つの項目からなっている。①父なる神への信仰告白 ②イエス・キリストへの信仰告白 ③聖霊への信仰告白。現在第四項と見える五つの内容は、後に付加されていったもの
- ロ) 三項目の形は洗礼における信仰告白が起源（既に3世紀のローマ、ヒッポリトス「使徒伝承」）

2) 現代の私たちにとっての意義

- イ) 私の信仰表明を行うこと。イエス・キリストを通して自らを差し出してくださった神を信じ、これに自らをうちまかせる行為
- ロ) 信仰宣言の客観性
- ハ) 教会とともにする信仰告白（共同体的な信仰）

3) それぞれの信仰告白の簡潔な意味

1. 「天地の創造主、全能の、神である父を信じる」

- イ) 天地の創造主
- ロ) 父である神
- ハ) おん父の子らであることの告白

2. 「父のひとり子・・・主イエス・キリストを信じる」

- イ) キリスト教にとって恐らく最も根本的な問い、「あなたはわたしを誰だというのか」（マルコ 8.29）への応答
- ロ) 「聖霊によって宿り、おとめマリアから生まれ、・・・」 / 異端との闘いの中で
- ハ) 父のひとり子・・・主イエス・キリストを信じる
 - ①イエスはキリストである ②主であるイエス・キリスト ③父のひとり子イエス・キリスト
- ニ) 十字架に付けられて死に、復活したイエス・キリスト

3. 「聖霊を信じる」

- イ) 固有の「顔」と名を持たない神・聖霊
- ロ) 父と子の霊である聖霊
- ハ) 教会を導く霊である聖霊（「聖なる教会の中で聖霊を信じますか」ヒッポリトス「使徒伝承」）

4. 聖なる普遍の教会、聖徒の交わりを信じる

- イ) 父と子と聖霊を信じる（Credo in ~）ことと教会を信じる（Credo Ecclesiam）ことの違い
- ロ) 聖なる普遍の教会を信じる
- ハ) 聖との交わりを信じる

5. 罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じる

- イ) 「罪のゆるしを信じる」→父なる神の、父としてのいつくしみを、罪と呼ぶ私たちの現実のただ中で信じます、という告白
- ロ) からだの復活を信じる、とは
- ハ) 永遠のいのちを信じる

「教義は、結局は、栄誦である。そして、その本来のふさわしい場は典礼における賛美の告白である」（W.カスパー「現代のカトリック信仰」）